



【成長を続ける元気な学校を目指して～改訂学習指導要領の趣旨と本校の取り組み～】

平成 28 年 12 月、中央教育審議会から次期学習指導要領に係る答申が示された。答申では、近年の情報化やグローバル化といった社会的変化が予想を超えて加速度的に進展し、今後の社会が複雑で予測困難となっていきている中、子供たちは、変化を前向きに受け止め、社会や人生を人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしていく必要があるといった趣旨が示されている。学校では、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるための資質・能力を育むことが期待され、キーワードとしては、「社会に開かれた教育課程の実現」である。

平塚中等教育学校では、平成 21 年の開校以来、本校の設置目的である「6 年間の一貫した教育の中で、多彩で豊かな教育内容の展開を通して、個性や創造性の伸張を図ると共に次世代を担うリーダーの育成」を掲げ、様々な教育プログラムに取り組んできたが、これまで教鞭を取られた諸先生方の情熱溢れる学校創りの想いや各教育プログラムの構築は、まさに改訂される学習指導要領の趣旨を踏まえた内容であることに改めて敬意を表したい。

さて、昨年度の修了式の際、生徒達には、これからの変化の激しい社会の中で、「今、求められている人材は？」「社会で通用する基礎力とは？」といった話をした。「昔は、グローバル化＝アメリカ化とイメージされていたが、最近では、働く職種や会社によって、様々な国の人達との関わりが生まれ、アメリカやアジア、ヨーロッパ、中東、アフリカなどの人達との関わりが出てきている。そうした方々との関わりを通して仕事をしていく世の中が直ぐ近くに来ている。たとえ世界に出て行かなくても、世界の

人達が日本に来て隣の席で仕事を共にしていく世の中となっていく。求められているグローバルな人材とは、語学が堪能だけではなく、「異文化を理解する能力」であり、日本人としてアイデンティティー（誇り・自信・自覚）を持つこと、日本人の習慣や考え方を理解して上で、異文化の相手に対して、自分の言葉・考えで相手に対して説明できるかといったことが問われてくる。そのためにも、コミュニケーションの取り方などの資質・能力が重要である。」と話したところである。

改訂学習指導要領では、「教科横断的な取り組み」として各教科等の特質に応じた見方・考え方も強調されている。各教科等の学びの中で、習得した知識を活用したり、身につけた思考力を発揮しながら、知識を相互に関連づけてより深く理解したり、問題を見出して解決策を考えたりする。その過程で、物事を捉える視点や考え方が鍛えられていく。具体には、社会人になり、企画を提案する際には、「数学的な見方・考え方」を働かせて物事をデータで捉えて分析したり、「言葉による見方・考え方」を使って言葉を吟味して説明したり、「造形的な見方・考え方」を使って構想を豊かに表す工夫をしたりする。だからこそ、すべての生徒が多様な教科を学ぶ意義があり、そして、その資質・能力を問う大学入試改革（すでに取り組んでいる大学もあるが）が検討されている。

先日の 5 月 11 日（木）に、前年度末に実施した「イギリス語学研修」の報告会があった。代表生徒からは、チェルムスフォードでのホームステイやアングロ・ヨーロピアンスクールでの学習、チェルムスフォードやロンドン市内における校外学習等の報告・説明を通して、自分たちが体験し学んできた内容を他の生徒に伝えた。イギリスという日本にとっては「異文化」を体験した生徒たちの説明からは、語学研修で得た

平成 29 年 5 月 19 日

貴重な経験を今後に活かしていきたいといった感想が聞かれた。頼もしい限りである！

本校のコンセプトである「神奈川から日本へ、日本から世界へ」と飛び立つ生徒を育成するため、「社会で通用する基礎力の育成」、そして「自分らしい生き方の創造」をすすめるため、各教科指導はもとより、キャリア実践プログラムの目的・ねらいの実現に向けて、さらに成長を続ける元気な平塚中等教育学校創りに、生徒・教職員・保護者と共に取り組んでいきたいと気持ちを新たにしたい今日この頃である。

